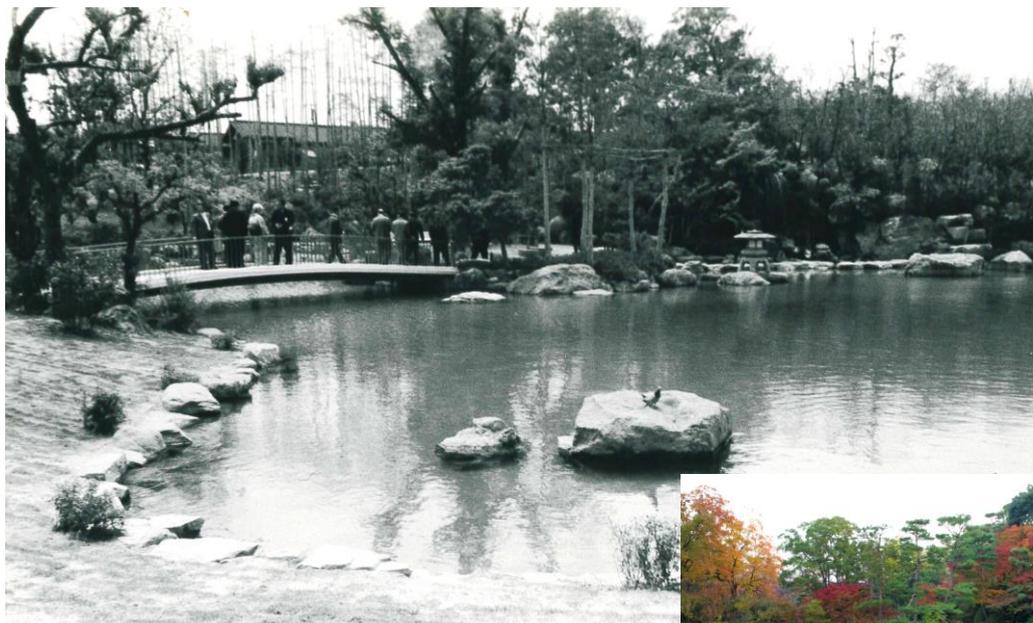


石橋文化センター日本庭園完成 50 周年



石橋文化センターの日本庭園は、ブリヂストンの創業者であり、造園を趣味とした石橋正二郎自らの構想により造成されました。1971年5月に一丈の滝や楽水の池など「水」を強調した第1期工事が完成。正二郎が好んだ「楽山愛水」にちなんで名づけられた新築の楽水亭にて寄贈式が執り行われました。翌1972年5月には、耳納連山の石約200トンを使ったロックガーデンなど「山」のイメージを表現した第2期工事の庭園が完成し、石橋文化センターは開園当初の約2倍の広さになりました。

2022年は、日本庭園全体が完成してから50周年の節目の年となります。半世紀を経て風格を増し、四季折々趣のある表情を見せる日本庭園は、市民の憩いの場として親しまれています。

楽山愛水 (らくざんあいすい)

私はこれまで造園を趣味としてきた。しかし庭造りの技法に格別詳しいわけではない。ただ、美しい自然の景観に接すると身心が浄(きよ)められるように感ずるので、限られたなかに樹を植え、石を蒐(あつ)め、土を盛り、水を引いて自然の姿をここにあらわし、これが年と共に趣の生ずるのを楽しみにしている。

古語に、知者(ちしゃ)は水を楽しむ、とあるが、石橋文化センター内に建造中の日本庭園もこの程完成し、その池畔の建物に楽水亭と名づけた。これは私の最近の喜びである。

「石橋正二郎会長随想集」より

日本庭園完成まで(1969-1972)

1969年（昭和44年） 石橋文化センター内に日本庭園を建設し、久留米市に寄贈
5月15日 することを発表

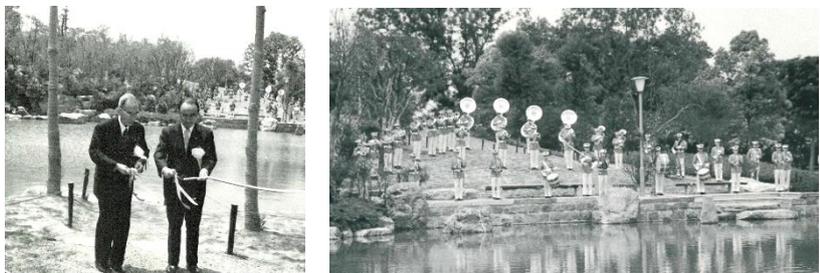
正二郎は「小高い場所で、がけなどあるので、これを削ったあと木を植えたい。水も取り入れたい。白鳥の池を拡張して、新庭園とつなぎ、水と樹木でいっぱいの庭園にする」と話した。

1970年（昭和45年） 日本庭園の通水式を挙
11月12日 行
日本庭園の一部の滝や池が完成。正二郎がスイッチを押し、一丈の滝が通水。市民より樹木の寄贈相づく。



建築中の楽水亭と楽水の池・一丈の滝周辺

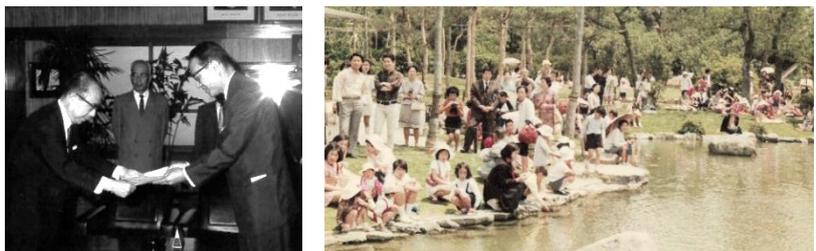
1971年（昭和46年） 日本庭園の寄贈式を挙
5月14日 行
正二郎や近見久留米市長ほか、関係者約100名が列席し、新築落成の楽水亭でセレモニーを挙



プリヂェストン吹奏楽団の演奏の中、正二郎と近見市長によるテープカットにより開園

1971年（昭和46年） 日本庭園の第2期工事始まる
10月1日

1972年（昭和47年） 日本庭園が完成
5月19日



石橋幹一郎から近見市長へ日本庭園の寄贈目録贈呈。 5/21 市民無料招待